道徳科推進委員会について

① 道徳推進委員会の目的

ア　小中学校で開始した道徳の教科化（道徳科）を踏まえて，「特別の教科 道徳」についての理解を深めるため。

イ　道徳科でどのような授業が望まれるのか，また，どのように評価していけばよいのかを研究し効率よくかつ効果的な授業（や評価）を行っていくための知見や情報を共有するため。

② 活動内容

ア パイロット校や先駆的な授業実践や指導方法の研究，紹介

・道徳の教科化に伴って，全国的に展開されている各地区の道徳教育の取り組みを研究したり，その成果を紹介したりしていく。

イ 望ましい授業展開の研究，紹介

・本年度は，学年別研究会にて授業検討や実践を行っていく。学習課題の適合性，手立て（役割演技・グループ対話・ペア対話等を含め）・発問構成・板書構成・補助発問等について検討し，ねらいに迫るための授業展開を研究していく。

③活動計画

５月 活動の目的や計画を報告（第２回主任者会にて）

５～６月 各校にて学年別授業研究の授業実施

７～１月 授業実践，授業研究のまとめ

２月 道徳教育の取り組みや指導方法等の紹介，来年度に向けて（第３回主任者会にて）

④道徳科の目標確認，授業時間数確保を目的とした取り組み，アイデア紹介

道徳科の特質を生かした授業を展開していく上で，以下は確実におさえておきたいです。

（前略）

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる【 道徳性 】を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、【 自己の生き方 】についての考えを深める学習を通して、【 道徳的判断力 】、【 心情 】、実践意欲と態度を育てる。

＜道徳科の目標＞

・道徳的諸価値について

【　　理解】…人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。

【　　理解】…道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

【　　理解】…道徳的価値を実現したり，実現できなかったりする場合の感じ方，考え方は一つではない，多様であるということを前提として理解すること。

～これはダメ～

・特定の道徳的価値を絶対的なものとして，無理くり教え込もうとする指導

・本来実感を伴って理解すべき道徳的価値の良さや大切さを観念的に（教え込みで）理解させたりする学習

＜授業時間数確保の取り組み・アイデア＞

道徳科に伴って，年間____時間（小学校１年生は____時間）の授業を確保していかないといけません。しかし，いざ学校生活が始まると，道徳の時間を他教科や行事の時間に振り替えたり，レクの時間に変えたりすることも…。道徳が教科化されて，授業を行わなければならないといっても，現場の教員としては中々難しいところがあります。右のようなことは，全国共通のようです。そこで，下線部に関係する取り組みを紹介します。

＜教師が道徳の授業を躊躇する理由＞

・_____

・授業方法が分からない。

・自信がない。

・だんだんマンネリ化する。

・話し合いが上手くいかない。

道徳バックの活用

①どの教材にも共通する道徳バッグ（各見出し等）

◎　・一度作ればどの教材でも使用できるので，準備の時間を大幅に減らすことができる。

・多忙な時期でも，指導書に目を通せればなんとか行える。

・担任管理で良いので，常時教室に保管できる。

△　・これだけではマンネリ化しやすい。

・教材の特色を生かすには不十分。

＜城北版 道徳バッグ＞

②教材ごとに作成する教材バッグ（登場人物，キーとなるシーンの挿絵，板書計画，本時の流れなど）

◎ ・作ってしまえば，２回目以降は使い続けることができる。(CD データを活用)

・その教材の特色を引き出し，より質の高い授業につなげることができる。

・多忙な時期でも質の高い道徳の授業に取り組みやすくなる。

・使用後に，授業のポイントや発問の工夫，気付いた点をメモしてバッグにいれておくだけで，次に使用する人の参考になる。以後その繰り返しで，授業の回数分指導方法が改善されていく。

△ ・学校全体で取り組むことが推奨される。最低でも１～２年間は作成する必要がある。

・学校（学年）に教材バッグを管理するスペースが必要となる。

・教科書が変わってしまった際に，教材によってはお蔵入りする可能性がある。

◎ローテーション（輪番制）

※学年担当が２名以上いれば（他県でも実践されています）

① ローテーション授業（ローテーション TT 授業）…担任のみでなく，学年担当の教諭で授業を進めていく。１人の教員が，１つの教材を全クラスで行う流れ。(担任が TT として入るのもあり)

例 学年３クラスなら

	１組（担任 A)	２組（担任 B)	３組（担任 C)
第７回道徳「学習机」	５月１２日 １限 授業者 A	５月１５日 ２限 授業者 A	５月１３日１限 授業者 A
第８回道徳「言葉の向こうに」	５月１９日 １限 授業者 B	５月２２日 ２限 授業者 B	５月２０日１限 授業者 B
第９回道徳「父の言葉」	５月２６日 １限 授業者 C	５月２９日 ２限 授業者 C	５月２７日１限 授業者 C

※ローテーションが上手く組めない場合は，総合時間や担当教科との入れ替えで工夫する

◎ ・生徒理解が多くの教員によって多面的に行える。教員同士の会話が増え，生徒の行動の背景や価値観を学年の教員全体で把握できる。(愛媛県内の中学校)

・「デメリットはあるが，発問の力をつけるために割り切っている」(大阪府内の中学校)

・同じ授業を複数回行うことができるので授業力（発問の厳選，切り返し，板書等）が高まる。

・年間を通じて継続させる必要性はない。時期を決めて行うことで，マンネリ化脱却の手立てとなる。

・必然と“道徳”に対する教員の会話が増えるので，道徳教育の意識が高まる。

△　・小学校では，他クラスの生徒の顔や名前を把握しにくいため，飛び込み授業は行いにくいことがある。（逆に，新たな刺激を与えられる・マンネリ化対策にもなるという意見もあります。）

・ローテーションを計画的に組んでいく必要がある。

・学校ごとに学年のクラス数は違うので，学校状況に応じた臨機応変さが求められる。６クラスならＡグループとＢグループの半分に分けて，ローテーション授業するなど。

・１つのクラスを継続して見れないので，子どもや生徒の変容が分かりにくくなる可能性がある。　（担任がTTとして入れば変容の様子は把握しやすくなる）

② **ローテーション教材準備**…その週の担当者を決め，その人が必要な教具，ワークシート，（余裕があれば板書や授業の流れ，主発問から補助発問まで）を学年分準備する。

◎　・ローテーションを組むのが簡単。複雑な授業ローテーションを組まなくても良い。

・自分の担当週以外は準備をしなくていいので，学年全体として負担の軽減につながる。

・道徳バッグとしてそのまま保存していけば，来年以降はさらに準備時間の削減となる。

・学校全体で取り組めば，作成したものを来年以降にも活用できる。

・学年の状況によって，副担任の先生との協力も可能。

△　・担当をしっかりと決めて継続していかないと，適当になってしまう。

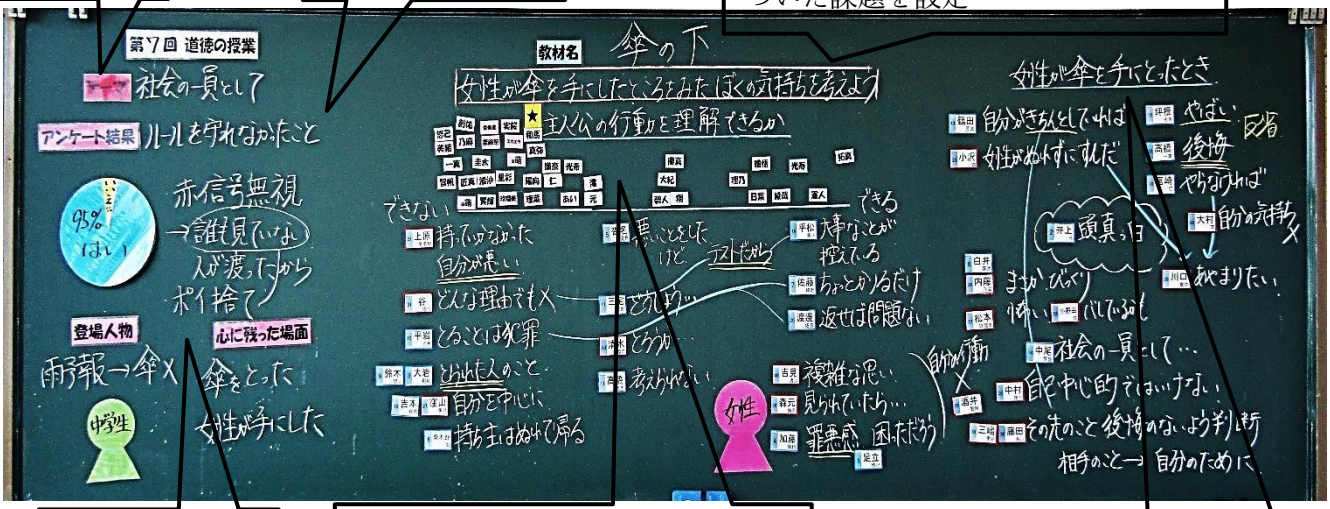
以上の工夫を紹介させてもらいましたが，学校の規模，コロナ禍での対応等，学校によって様々な制限があると思います。その中で，道徳の授業時間が確保していけるように，道徳主任の先生方を中心に，まずは準備の負担を減らす取り組みを行っていけたらと思います。

＜城北スタイルの紹介（板書を中心に）＞

テーマ

アンケート結果

教材の判読後の生徒の問題意識に基づいた課題を設定



あらすじ
登場人物
心に残った場面
気になった場面

基本発問（中心発問へ導く発問）
・立場が明確になるような構成
・異なる意見は対立軸などを使い、同じ意見は矢印でつなぐ。

中心発問
意見をまとめ、終末で自分自身を振り返って考えられるようにする。

小中含め，担当学年によって，当然挿絵の量や板書方法に違いがあると思いますが，城北中は以上のようなスタイルを中心に授業に取り組んでいます。まずは１つのスタイルを確立することで，授業に取り組みやすくなりました。また，毎年，校内道徳授業研を行って，全職員で授業スタイルを共有し，新たな手立てや工夫に対して議論を行い，バリエーションを増やすことに取り組んでいます。あくまで一例として城北中を紹介させてもらいました。

＜新たな取り組みの様子＞